

PRIMERGY RX500 S7 ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY RX500 S7 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

1. UEFI モードでの OS インストールは未サポートです

BIOS 設定の [Advanced] メニュー – [PCI Subsystem Settings] における “EFI Compatible ROM” 設定はサポートしておりません。

2. Dual port LAN カード(10GBASE) ご使用時の留意について

CPU を 1コアのみで使用し、かつ、Dual port LAN カード(10GBASE)【PYBLA242U / PY*LA242】とファイバーチャネルカード(8Gbps) / Dual port ファイバーチャネルカード(8Gbps)【PY*FC211 / PY*FC212】が搭載されている場合、Dual port LAN カード(10GBASE)が認識できない場合があります。

3. Console Redirection 機能 ご使用時の留意について

Console Redirection 機能を使用して、PXE / iSCSI / SCU / ファイバーチャネルカード【PY*FC201 / PY*FC202】の Option ROM メニュー操作を行った後、上位階層のメニューに戻る場合、ESC キーを 2 回押下する必要があります。

4. BIOS1.06 では、iRMC からの強制 PXE ブートは未サポートです

BIOS1.06 では、BIOS の設定の [Advanced] メニュー – [Onboard Device Configuration] の [LAN 1 Oeprom] および [LAN 2 Oeprom] を “Disabled” に設定した場合には、iRMC からの強制 PXE ブートはサポートしておりません。

5. BIOS1.10 以前では、SR-IOV (*1) 機能は未サポートです

BIOS1.10 以前では、SR-IOV 機能は未サポートです。

*1: Single Root I/O Virtualization

6. 内蔵 ODD (Optical Disc Drive)の接続は、IDE mode のみです

内蔵 ODD(SATA 内部接続)は IDE mode のみサポートしております。

7. MegaSR ご使用時の留意について

MegaSR(オンボードソフトウェア RAID)使用時は、BIOS 設定の [Advanced] メニュー – [Option ROM Configuration] を、全てのスロットで “Disabled” に設定してください。また、BIOS 設定の [Advanced] メニュー – [Onboard Devices Configuration] において、[Onboard SAS/SATA(SCU)] を “Enabled” に設定、

[SAS/SATA OpROM]を“LSI MegaRAID”に設定してください。

8. BIOS1.06 では、BIOS への書き込み禁止モードの使用不可について

BIOS1.06 では、BIOS 設定の[Security]メニュー – [FLASH write]の“Disabled”設定は未サポートです。

9. ファイバーチャネルカード【PY*FC211 / PY*FC212】 および、オンボード SCU の OPROM の使用について

ファイバーチャネルカード【PY*FC211 / PY*FC212】とオンボード SCU の OPROM の操作時に、コンソールリダイレクションでは、メニューが正しく表示されません。正しく表示するためには VGA を使用してください。

10. BIOS1.06 での iRMC の「CPU 周波数」の表示について

BIOS1.06 では、iRMC の「システムの構成情報」の「CPU 周波数」が常に「4000」で表示されますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

11. BIOS1.06 での iRMC の「ベース周波数」の表示について

BIOS1.06 では、iRMC の「システムの構成情報」の「ベース周波数」が常に「8000」で表示されますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

12. ServerView Operations Manager V6.00.xx で、IPv6 を使用した場合の iRMC のビデオリダイレクションの未サポートについて

ServerView Operations Manager V6.00.xx で、IPv6 を使用した場合、iRMC のビデオリダイレクションは使用できません。

13. BIOS1.06 での Boot オプションでの USB メモリの名称表示について

BIOS1.06 では、POST(Power On Self Test)中に USB メモリが接続されていた場合、USB メモリを交換しても、Boot オプションで表示される名称が以前の接続されていた USB メモリの名称のままになる場合がありますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

14. 内蔵 LTO 接続時の BIOS の設定について

BIOS1.10 以前では、内蔵 LTO 接続時、BIOS 設定の「Advanced」メニュー – [Onboard Devices Configuration] – [SAS/SATA OpROM]を“Disabled”に設定してください。

BIOS1.11 以降では、内蔵 LTO 接続時、BIOS 設定の「Advanced」メニュー – [Onboard Devices Configuration] – [SAS/SATA OpROM]を“Intel RSTe”に設定してください。

15. ServerView Installation Manager11.12.xx 以前を使用した場合のポート拡張オプション(10GBASE×2)【PYBLA242U】からのWake ON LANでのブートについて

ServerView Installation Manager11.12.xx 以前を使用した場合、RHEL の OS シャットダウン後、ポート拡張オプション(10GBASE×2)【PYBLA242U】から、Wake ON LAN でブートすることはできません。

16. BIOS1.10 以前での RHEL における内蔵 LTO3/4/5 の接続について

本サーバでサポートしている全ての RHEL が対象です。

BIOS1.10 以前では、RHEL において内蔵 LTO3/4/5 を接続する時は、「SAS link speed」を“1.5Gbps”に設定してください。また、下記の設定を行った場合にも、外付けの LTO 装置の設定に影響はありません。

設定方法は以下です。

```
/etc/init.d/boot.local
```

上記ファイルに以下を追加して下さい。

```
rmod isci
```

```
modprobe isci phy_gen=1
```

17. BIOS1.10 以前での RHEL における SAS RAID カード情報の表示について

BIOS1.10 以前では、RHEL において、ServerView Operations Manager の「外部記憶装置」メニューから「SAS アレイコントローラカード【PY*SR3C3 / PY*SR3PR / PY*RLSE01】」の情報を確認した場合に、“Intel C600 PCH SATA Controller 1”が表示されますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

18. Smart-UPS SMT 3000RMJ、PMAN の COM ポートへの接続について

Smart-UPS SMT 3000RMJ、PMAN を COM ポートに接続した場合、iRMC のコンソールリダイレクション機能は使用できません。

19. Windows イベントログ(イベント ID: 56)について

本サーバでサポートしている全ての Windows が対象です。

コンバージド・ネットワーク・アダプタ【PY*CN202】搭載時において、下記のイベントが OS のイベントログに記録されることがあります。動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

ソース: Application Popup

イベント ID: 56

レベル: エラー

キーワード: クラシック

“ドライバー SCSI は、子デバイス (xxxxxx) に無効な ID を返しました。”

Dual port LAN カード (10GBASE) (PY*LA242) 搭載時において、下記のイベントが OS のイベントログに記録されることがあります。動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

ソース:Application Popup

イベント ID:56

レベル:エラー

キーワード:クラシック

“ドライバー PCI は、子デバイス (xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx) に無効な ID を返しました。”

20. SVOM におけるメモリ情報の表示について

LRDIMM 搭載時、ServerView Operation Manager 上で「システムステータス」→「ベースボード」→「メモリモジュール」の「TYPE」が『RDIMM』で表示されますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

21. BIOS1.10 以前での SVIM におけるオンボード SATA コントローラ拡張オプション使用時の OS のインストールについて

本サーバでサポートしている全ての OS が対象です。

BIOS1.10 以前では、オンボード SATA コントローラ拡張オプション【PY-RLSE01/PYBRLSE01】を用いて RAID を構築する場合、ServerView Installation Manager11.12.10.xx を使用して OS のインストールはできません。

22. SVOM におけるポート拡張オプション情報の表示について

RHEL において、ServerView Operations Manager 上で「システムステータス」-「ネットワーク」-「ネットワークアダプタ」で、ポート拡張オプション

【PYBLA222U/PYBLA234U/PYBLA242U/PYBLA232U/PYBLA244U】の情報を確認した場合に、情報が正確に表示されない場合がありますが、動作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

23. ServerView Installation Manager(11.12.10.xx)における OS のインストールについて

本サーバでサポートしている全ての OS が対象です。

ServerView Installation Manager(11.12.10.xx)を使用し、RAID カード【PY-SR3C3/PYBSR3C3】上に RAID を構成した場合、HDD を認識できません。POST 中に WebBIOS を起動し、WebBIOS 上であらかじめ RAID 構築を行ってから OS をインストールして下さい。

24. ServerView Operations Manager 6.00.xx 以前での RHEL におけるコンバージド・ネットワーク・アダプタ情報の表示について

本サーバでサポートしている全ての RHEL が対象です。

ServerView Operations Manager 6.00.xx 以前では、RHEL において、ServerView Operations Manager 上で「システム」-「ディスクパーティション」でコンバージド・ネットワーク・アダプタ【PYBCN202/PY-CN202】の情報を確認した場合に、情報が正確に表示されない場合がありますが、動

作上における支障はございませんので、そのままご使用ください。

25. BIOS1.10 以前での Windows Server 2012 におけるオンボード SATA コントローラへのインストールについて

BIOS1.10 以前では、Windows Server 2012 は、オンボード SAS/SATA コントローラに接続されている HDD/SSD にインストールすることはできません。Windows Server 2012 をインストールする場合は、SAS アレイコントローラカード【PY-SR3C3/PYBSR3C3】をご使用下さい。

26. Windows Server 2012 におけるポート iSCSI の使用について

Windows Server 2012 に、LAN ドライバ 17.2 がインストールされている場合、iSCSI を使用することができません。

27. Windows server 2012 以前では、CDN 機能は未サポートです

Windows server 2012 以前では CDN 機能は未サポートです。Windows2012 R2 でサポートです。

28. RHEL における kdump について

本サーバでサポートしている RHEL5 系では、igb OEM ドライバを使用した 1G LAN では、kdump を取ることはできません。Kdump をご使用の場合は、Native ドライバをご使用下さい。

29. RHEL における、ServerView System Monitor の使用について

本サーバでサポートしている RHEL5 系では、ServerView System Monitor をインストールすることができません。ServerView Operations Manager 上でご確認下さい。

30. Windows2012 の留意注意事項について

Windows2012 の留意注意事項については、Microsoft® Windows Server® 2012 の動作確認情報を合わせてご確認下さい。

31. 電源動作について

電源 ON 動作直後、電源表示ランプが緑色になった後、オレンジ色になり、再び緑色になる場合がありますが故障ではありません。

32. ネットワークカード / システムボード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2 を御使用の場合、ネットワークカード、またはシステムボードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報(IP アドレス / Teaming 設定など)が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を

回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008(SP2): KB2710558(Hotfix 適用後、レジストリ変更が必要)

Windows Server 2008 R2: KB2344941 , KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2(SP1): KB2550978 , KB976042

※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

・Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。

2012 年 12 月時点では、以下の URL から検索可能です。

<http://support.microsoft.com/>

・Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。

OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

(1) デバイスマネージャを起動します。

コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1
start devmgmt.msc
```

(2) 非表示デバイスを表示可能にします。

デバイス マネージャで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。

(3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。

色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

33. VMware 4.1 update2 以降をインストール後、内蔵 DVD デバイスを認識できません

VMware 4.1 update2 以降において、起動後、内蔵 DVD ドライブを/dev/scd0 として認識できません。外付け DVD ドライブまたはリモートストレージをご使用頂くか、VMWare のデータストアに ISO イメージファイルを転送し、マウントして vSphere Client からご使用下さい。

34. BIOS1.11 以前での PXE Boot のリトライについて

BIOS1.11 以前では、BIOS 設定の[Boot]メニュー — [PXE Boot Option Retry]の”Enabled” はサポートしておりません。

35. POST 中の Option ROM メッセージの非表示について

BIOS 設定の[Boot]メニュー — [Option ROM Messages]の”Keep Current” はサポートしておりません。

36. BIOS1.11 以前での BIOS のシステムの電源管理について

BIOS1.11 以前では、BIOS 設定の[Power]メニュー — [Power-on Source] はサポートしておりません。

37. BIOS1.10-1.13 での PCIe SSD 搭載時の Windows OS のインストールについて

BIOS1.10-1.13 の版数では、PCIe SSD を搭載した場合、Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2 をインストールする事ができません。一旦 PCIe SSD をサーバ本体から取り外し、OS をインストール後、PCIe SSD を再度搭載してご使用下さい。

38. BIOS1.13 でのパフォーマンスマード時の、BIOS メニュー[Memory configuration] の設定値について

BIOS1.13 において、BIOS 設定の[Advanced]、[Memory configuration] - [DDR Performance] で “Performance optimized” を設定された場合、[Memory configuration] - [Refresh Rate Multiplier] の “4x” 設定はサポートしておりません。

39. BIOS1.15 以前では、SAS アレイコントローラカード【PY-SR3C33/PYBSR3C33】は未サポートです

BIOS1.15 以前では、SAS アレイコントローラカード【PY-SR3C33/PYBSR3C33】は未サポートです。

40. BIOS1.18 以前では、RedHat5.9/6.4 でのオンボード RAID の使用制限について

BIOS1.18 以前では、RedHat5.9/6.4 をインストールするシステムの場合、下記の構成ではオンボード RAID を使用することはできません。

[対象構成]

- オンボード SATA コントローラ拡張オプション(PY-RLSE01/PYBRLSE01)を使用して、オンボード RAID へ下記の SSD を接続して使用する場合
- 内蔵 2.5 インチ SSD(PY-SD10ND/PY-SD20ND/PY-SD40ND/PYBSD10ND/PYBSD20ND/PYBSD40ND)。

41. BIOS1.18 以前では、Windows OS または Linux RedHat5.8/6.2/6.3 でのオンボード RAID の使用制限について

BIOS1.18 以前では、Windows OS、または Linux RedHat5.8/6.2/6.3 をインストールするシステムの場

合、下記の構成では、後述の版数のドライバを使用してください。

デバイスドライバは富士通のダウンロードサイトより入手可能となっております。

[対象構成]

- オンボード SATA コントローラ拡張オプション(PY-RLSE01/PYBRLSE01)を使用して、オンボード RAID へ下記の SSD を接続して使用する場合
- 内蔵 2.5 インチ SSD(PY-SD10ND/PY-SD20ND/PY-SD40ND/
/PYBSD10ND/PYBSD20ND/PYBSD40ND)

[使用するドライバ版数]

Windows Server 2012 の場合: V15.00.0811.2012

上記以外の Windows OS、または Linux の場合: V15.00.0329.2012

[デバイスドライバの入手方法]

以下の弊社 URL より該当の機種を選択し、ダウンロードしてください。

<http://www.fmworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviaindex.cgi>

※次の項目のみ選択し“検索開始”ボタンを押下してください。

- ・製品名: [ご利用の機種を選択]
- ・型名: [ご利用機種の型名を選択]
- ・OS: [ご利用のOS名を選択]
- ・カテゴリ: [RAID／その他] (*)

*: カテゴリの選択

・Windows の場合、

カテゴリは「RAID」を選択してください。

検索結果の一覧より「ソフトウェア RAID Embedded MegaRAID Windows Driver」をダウンロードしてください。

Windows Server 2012 の場合: V15.00.0811.2012

Windows Server 2012 以外の場合: V15.00.0329.2012

・Linux の場合

カテゴリは「その他」を選択してください。

検索結果の一覧より、お使いのカーネル版数に該当する最新版ドライバキットをダウンロードしてください。

42. BIOS1.10 から BIOS1.18 において、ServerView Resource Orchestrator の管理対象サーバとして使用した制限について

BIOS1.10 から 1.18 において、ServerView Resource Orchestrator V3.0.0 以降を使用している場合、ServerView Resource Orchestrator のマネージャーおよび HBA address rename 設定サービスから指定した仮想 WWPN が正しく設定できないため、HBA address rename による I/O 仮想化が利用できま

せん。

43. BIOS:1.18～1.19におけるPCI Express Gen3のPCIカードの搭載について

BIOS:1.18～1.19では、PCI Express 3.0(8.0GT/s)のPCIカードを搭載した場合、PCI Express 2.0(5.0GT/s)で動作します。

44. RHEL5.10におけるオンボードSATAコントローラへのインストールについて

RHEL5.10は、オンボードSAS/SATAコントローラに接続されているHDD/SSDにインストールすることはできません。RHEL5.10をインストールする場合は、SASアレイコントローラカード【PY-SR3C33/PYBSR3C33/PY-SR2L2/PYBSR2L2】をご使用下さい。

45. Windows Server 2012 R2におけるオンボードSATAコントローラへのインストールについて

Windows Server 2012 R2は、オンボードSAS/SATAコントローラに接続されているHDD/SSDにインストールすることはできません。Windows Server 2012 R2をインストールする場合は、SASアレイコントローラカード【PY-SR3C33/PYBSR3C33/PY-SR2L2/PYBSR2L2】をご使用下さい。

46. BIOS1.23以前での、BIOS設定の[Management LAN Speed]の制限について

BIOS1.23以前では、BIOS設定の[Server Mgmt]メニューの[iRMC LAN Parameters Configuration]→[Management LAN Speed]を[100 Mbit/s Full Duplex]に設定するとiRMCと接続できません。

47. iRMC6.59D以前での、iRMC S3 Webインターフェースからの設定情報のインポート後、電源ケーブルを抜き差しした場合の注意事項について

iRMC6.59D以前では、iRMC S3 Webインターフェースの[iRMC S3]→[設定の保存]の[ServerViewのXML形式で保存されたiRMC S3ファームウェアの設定の読み込み]で設定情報をインポートした後、電源ケーブルの抜き差しを行うと、IPアドレスとアカウント情報が消失する場合があります。

48. iRMC6.61DでのiRMC S3 WebインターフェースでiRMC S3情報、イベントログ保存後の注意事項について

iRMC6.61Dでは、iRMC S3 WebインターフェースでiRMC S3情報、イベントログを保存後、他の項目を選択すると、「You do not have sufficient permission to access this document」と表示される場合があります。

この場合には、ログアウトして再度ログインしてください。

49. iRMC6.61D での、iRMC S3 Web インターフェースの PCI Slot No.表示について

iRMC 6.61 以降では iRMC S3 Web インターフェースで、PCI Slot No.の番号が誤表示されますが、下記の通りにスロット番号を読み替えてご使用ください。

iRMC 6.59 以前での表記	iRMC 6.61 の表記
Slot1	Slot 18433
Slot2	Slot 20482
Slot3	Slot 22531
Slot4	Slot 24580
Slot5	Slot 34821
Slot6	Slot 36870
Slot7	Slot 51207
Slot8	Slot 53256
Slot9	Slot 8201
Slot10	Slot 4106
Slot11	Slot 6155

50. ファイバーチャネルカードの BIOS(QLogic Fast!UTIL)での PCI Slot No.表示についての留意

ファイバーチャネルカードの BIOS(QLogic Fast!UTIL)を起動した場合、「Slot」がすべて「00」であるためスロット番号を特定できません。BIOS 画面上に出力されている Bus 番号から Slot 番号が識別できますので、下記の通りに読み替えてご使用ください。

Bus	Slot 番号
10	Slot#10
18	Slot#11
20	Slot#9
48	Slot#1
50	Slot#2
58	Slot#3
60	Slot#4
88	Slot#5
90	Slot#6
C8	Slot#7
D0	Slot#8

51. Java 8 update 45(8u45)でのビデオリダイレクション (AVR) 機能の留意について

※本事象は Java 8 update 51(8u51)以降の版数では発生いたしません。

Java 8 update 45 (2015 年 4 月 14 日公開) を適用した管理端末でビデオリダイレクションを起動する場合、プロキシサーバを使用する環境において、以下のメッセージを表示して本機能が動作しないことがあります。



本事象は、以下のいずれかの方法で回避可能です。

- ① ビデオリダイレクションを起動する管理端末でプロキシサーバを利用しない設定にする。
- ② プロキシサーバの設定で java.com へのアクセスを許可する。

注) 上記①②、設定をするに当たり、お客様ネットワーク管理者に確認ください。

なお、本事象は Java 8 update 40(8u40)以前の Java 版数では発生いたしません。

＜回避策①における管理端末の Java のネットワーク設定例＞

- (1) [スタート]メニューから [すべてのプログラム] → [Java] を選択します。
- (2) [Java の構成] をクリックして、[Java コントロール・パネル] ウィンドウを開きます。
- (3) [一般] タブを選択し、[ネットワーク設定] ボタンをクリックします。
- (4) [直接接続(D)] を選択し、[OK] ボタンを押下。設定を保存し、終了してください。なお、設定変更後は WEB ブラウザの再起動が必要です。



52. CPU Internal Error における対処について

CPU Internal Error(CPU IERR)が発生すると、下記の事象が発生します。

- 1) システム運用中、予期せぬシャットダウンが発生しシステムが再起動される。
- 2) システムシャットダウン時、電源切断されずシステムが再起動される。

システムイベントログ(*1)にて、CPU IERR が発生しているかどうかを確認してください。

CPU IERR が発生している場合は、以下の対処を実施してください。

1. BIOS/iRMC フームウェアの更新情報(*2)がないかご確認ください。
稼働中のシステムより新しい修正モジュールがある場合は適用してください。
2. PCI カード(SAS アレイコントローラカード、SAS カード、SCSI カード、LAN カード等)の
ドライバ/ファームウェアの更新情報(*2)をご確認ください。
稼働中のシステムより新しい修正モジュールがある場合は適用してください。
3. 上記実施後も再度事象が発生する場合は、修理相談窓口までご連絡ください。

CPU IERR が発生しても故障ランプは点灯しません。また、本製品に添付されている ServerView のバージョンではポップアップによる画面通知は行われません。

CPU IERR をポップアップ通知するには、ServerView を更新する必要があります。ServerView の更新版は、以下の当社ホームページより入手できます。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>

*1 システムイベントログの例

'CPU1': CPU internal error (IERR)

注)CPU 番号は異常が発生している CPU により異なります。

*2 最新のファームウェア/ドライバにつきましては、以下の当社ホームページより入手できます。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>

53. BIOS1.10 以降、メニューの変更について

BIOS1.10 以降、メニューの変更がありました。詳細は、次ページ以降の【付録 1】をご参照下さい。

54. BIOS1.11 以降、メニューの変更について

BIOS1.11 以降、メニューの変更がありました。詳細は、次ページ以降の【付録 2】をご参照下さい。

55. BIOS1.13 以降、メニューの変更について

BIOS1.13 以降、メニューの変更がありました。詳細は、次ページ以降の【付録 3】をご参照下さい。

56. iRMC Firmware 6.59D 以前での電源ユニットのエラーログについて

iRMC Firmware 6.59D 以前では、下記のメッセージが表示される場合があります。エラー発生の 12 秒後にステータスがOKに復旧している場合は、電源ユニットの問題はありません。

「Major | Power Unit | Power unit: power supply redundancy lost」

iRMC Firmware 6.61D 以降で修正されていますのでアップデートをお願いいたします。

57. ファイバーチャネルカード(8Gbps) 【PY*FC201/PY*FC202】の Firmware2.02/Boot BIOS7.00 以降、及びファイバーチャネルカード(16Gbps)【PY*FC221】のファームウェア 11.1 以降で使用する場合の留意

ファイバーチャネルカード(8Gbps)【PY*FC201/PY*FC202】の Firmware2.02/Boot BIOS7.00 以降、及びファイバーチャネルカード(16Gbps)【PY*FC221】のファームウェア 11.1 以降で使用する場合は、BIOS 版数 1.27 以降でご使用ください。

58. ファイバーチャネルカード(8Gbps)【PY*FC211/PY*FC212】の QLogic Fast!UTIL 画面における矢印キーと Enter キーをご使用になる場合の留意

ファイバーチャネルカード(8Gbps)【PY*FC211/PY*FC212】の QLogic Fast!UTIL 画面において、矢印キーと Enter キーが入力できない場合があります。その場合は Ctrl キーを押下してからご使用ください。

【付録 1】

『PRIMERGY RX500 S7 用 D3039 BIOS セットアップユーティリティ』の下記の項が変更されます。

4.1 CPU Configuration

※4.1項の最後尾に下記が追加されます。

Link L0p

QPI L0p Stateの設定ができます。



ベンチマーク用の機能のため，設定変更の必要はありません。

Disabled

QPI L0p Stateの設定が無効になります。

Enabled

QPI L0p Stateの設定が有効になります。

Perfmon and DFX devices

QPI/パフォーマンスマニタとDFXデバイスを有効にすることができます。



ベンチマーク用の機能のため，設定変更の必要はありません。

Disabled

QPI/パフォーマンスマニタとDFXデバイスが無効になります。

Enabled

QPI/パフォーマンスマニタとDFXデバイスが有効になります。

4.3 Memory configuration

DDR Performance

メモリモジュールは互いに異なる速度（周波数）で動作できます。高速になるほどパフォーマンスが向上し、低速になるほど省電力になります。使用可能なメモリ速度は、取り付けられているメモリモジュールの構成によって異なります。

Low-Voltage optimized

低電圧で可能な最も高速な設定。

追加

Energy optimized

省電力で可能な最も低速な設定。

Performance optimized

最高のパフォーマンスを得るために可能な最も高速な設定。

4.9.1 USB Port Security

USB ポートの可用性を設定するサブメニューが開きます。一部、特定の条件でのみ使用できる設定があります。

USB Port Disable

USB ポートの使用方法を設定します。無効にされた USB ポートは、POST 中に使用できず、OS でも使用できません。

Enable all ports

すべての USB ポートが有効です。

名称変更

USB Port Control

↓

USB Port Disable

Disable all ports

すべてのUSBポートが無効です。

追加

Disable all rear ports

すべての背面 USB ポートが無効です。

Disable all front ports

すべての前面 USB ポートが無効です。

Disable all external ports

すべての外部 USB ポートが無効です。

6 Boot メニュー

Boot error handling

エラーの検出時にシステムのブートプロセスを一時停止し、システムを停止するかどうかを指定します。

Continue

システムブートは一時停止しません。 エラーは可能な限り無視されます。

Pause and wait for key

エラーが POST 中に検出された場合、システムブートは一時停止します。

UEFI Boot

UEFI デバイスからのブートが可能かどうかを指定します。

Disabled

UEFI ブートはできません。

Enabled

UEFI ブートが可能です。

追加

Boot Removable Media

USB メモリなどのリムーバブルデバイスへのブートのサポートが可能かどうかを指定します。

Disabled

リムーバブルデバイスへのブートは非アクティブ化されます。

Enabled

リムーバブルデバイスへのブートはアクティブ化されます。

【付録 2】

『PRIMERGY RX500 S7 用 D3039 BIOS セットアップユーティリティ』の下記の項が変更されます。

4.11 Onboard Devices Configuration

SAS/SATA OpROM

BIOS POST 中に適切な Option ROM が起動する場合は、ブートコントローラとして SAS/SATA SCU コントローラを使用できます。このパラメータは、Option ROM を起動するかどうかを指定し、起動する場合は Option ROM のタイプを指定します。レガシー、つまり、非 UEFI Option ROM のみ有効です。選択した Option ROM によって、対応するオペレーティングシステムドライバも必要です。

Disabled

いかなる Option ROM も起動しません。

LSI MegaRAID

LSI による MegaRAID Option ROM を起動します。

Intel RSTe

Intel による RSTe (Rapid Storage Technology enterprise) Option ROM を起動します

追加

5 Server Mgmt メニュー

Fan Curve

ファンスピード制御を通常モードか高速モードか指定します。



ベンチマーク用の機能のため、設定変更の必要はありません。

Normal

ファンスピード制御を通常モードにします。

High Speed

ファンスピード制御を高速モードにします。

【付録 3】

『PRIMERGY RX500 S7 用 D3039 BIOS セットアップユーティリティ』の下記の項目が追加されます。

4.3 Memory configuration

Fast Patrol Scrub

全メモリの定期的なバックグラウンドスクリーニングを高速で実行するかを指定します。高速で実行するとメモリの信頼性は向上しますが、消費電力が増し、パフォーマンスも低下します。

Disabled

低速スクリーニング設定。

Enabled

高速スクリーニング設定。

Refresh Rate Multiplier

メモリのリフレッシュサイクルの頻度を指定します。高速指定にするとメモリの信頼性は向上しますが、消費電力が増し、パフォーマンスも低下します。

1x...3x

リフレッシュサイクルの設定。1xが最低速で、3xが最高速。

以上

Copyright 2016 FUJITSU LIMITED